

2022年8月10日

2022年7月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判は全体的に低調な動きで推移した。要因には値上げに伴う大口物件の受注減少もあり前年を下回った。前々年比でみても92.8%であり回復が全く見られない状況となっている。

巻取は生損保、共済、金融関連の仕事が前年並みに動き前年をやや上回った。前々年比でみても101.2%で7月については上記定期品の動きに変化は見られなかった。

（前年比 平判 92.1% 巻取 101.3%）

再生紙平判は相変わらず再生紙から森林認証紙への変更、在庫不足も続き前年を大幅に下回った。前々年比でみても43.6%であり回復の兆しはみえない状況。

再生紙巻取は一部大口定期品の動きが寄与し前年を大幅に上回った。前々年比でも177.5%であるが再生紙全体では平判の数字が悪く85.9%であった。

（前年比 再生上質平判 65.9% 再生上質巻取 187.2% 再生上質計 114.2%）

（前年比 印刷用紙 A 全体 93.7%）

（2019年比 印刷用紙 A 計 72.0%）

<A2 コート>

平判は旅行関連チラシ、大学関連のパンフレット、出版関連で動きがみられたが、全体的には新規案件の減少等紙離れが進み、グロス、マット共に前年を下回った。

巻取は不動産、通販関連、食品デリバリーで動きがみられたものの、引続き雑誌関連の落ち込みもみられ、マットは前年を下回った。

（前年比 平判 96.1% 巻取 86.6% 全体 94.1%）

（2019年比 A2 コート計 70.4%）

<A3 コート>

ドラッグストアや量販店、学習塾、生損保、旅行のチラシ案件で動きがみられ、巻取は大幅に前年を上回り、全体でも前年を上回った。

（前年比 平判 88.0% 巻取 120.7% 全体 110.6%）

（2019年比 A3 コート計 84.9%）

<ノーカーボン紙>

官庁、共済関連の動きはみられたものの、金融、生損保含め低調。前回の価格修正後にノーカーボン離れがさらに加速している感があり、巻平共に前年を大きく下回った。

（前年比 平判 86.3% 巻取 81.3%）

<上質フォーム>

自治体、金融、生損保含め目立った動きはなかったが、量販店キャンペーン向けのプライスカードの動きや共済の通知物などの動きがみられ、前年並みに推移した。

(前年比 100.7%)

<包装用紙>

特殊両更は役所向けの封筒含め全般的に動きがみえず前年を大きく下回った。

(前年比 64.6%)

軽包装は一部で大口スポットがあり前年を大きく上回った。

(前年比 217.6%)

片艶晒は生命保険会社向けの封筒が前年とほぼ同様な動きをみせ前年を上回った。

(前年比 103.8%)

両更晒は生命保険会社向け、通信会社向け封筒の需要が一部あったものの手提袋の需要は伸び悩み前年を僅かに下回った。

(前年比 99.5%)

純白ロールは百貨店の客足が一時的に回復したこと、夏季の需要を見込んだ土産関連の包装紙に動きがみられ前年を大きく上回った。

(前年比 122.6%)

包装紙全体では135.6%と前年を上回った。

<板紙>

コートボールは食品、日用雑貨、医薬関連を中心に好調な動きであった。

高板は商印関連が多少回復するものの出版関連が低調で特板はテイクアウト向けや菓子関係が堅調であった。

チップボールは梱包材、紙器関連に動きがみられたが児童本は低調であった。

活発な動きはないものの全体では前年を大きく上回った。

(前年比 123.7%)